



あの人と
この話

歌だから、さらけ出せる 伝えたいことや自分を

ソプラノ歌手

西田 ちづ子 さん

にしだ・ちづこ ●大阪音楽大学声楽学部卒業。1975年渡仏、故アルフレッド・デラー主宰のルネサンス音楽マスタークラス修了。91年渡英、英国各地の「ジャパンフェスティバル」のリサイタル、チャリティー音楽会に出演。98年帰国後もコンサート活動を続ける。2002年榎名梅の里音楽祭にて奨励賞、06年伊能美智子主催「第1回小倉百人一首うたくらべ」優秀賞受賞。二期会会員、日本演奏連盟会員。ライブ盤CD「歌ごころ」に続き、「犬との誓い」をリリース。売上金の一部が動物保護団体NPO法人アニマルフェュージ関西に寄付される。ホームページ <http://naks.biz/nishida/>

西 田さんは楽しそうに教えてくれた。おなかから声を出すと幸せがやってくるそうである。

「それは老若男女の区別なく、歌というのは思いを伝えるだけで喜びなんですね。さらに横隔膜の使い方を覚えて、今まで出せなかった豊かな声や音域が自分の体から出たら、どれほどうれしいでしょうか。歌は、その声に乗せてのびやかに自分をさらけ出し思いを伝えることができる。これは人間への天からの贈り物だと思います」

心のひだの奥に隠されていた思いを自身で知ることができた。誰にも言えなかった心の萎縮をひそかに解き放っていきける。長い間舞台で歌い続けてきた西田さんの、歌に寄せる思いの深さが伝わってくる。

その西田さんが強い衝動に駆られた。動物に対する世の中の責任の無さに、何か訴えることはできないか。大の犬好きである西田さんが出会ったのは、英文で書かれた「犬の十戒（犬の飼い主のための十戒）」だった。作者不詳とされるこの原詩に心

を打たれ、歌でその思いを伝えたいと願う。

「犬の歌と言えば『いぬのおまわりさん』だと思いましたが。そしてその作曲をなさった一面識も無い大中原先生に、恐る恐る曲を付けていただきたいとお願いしたのです。怖いもの知らず（笑）。でも先生は快くお引き受けくださった。ただ、詩はあなたの言葉で訳しなさいと」

後には引けない。悪戦苦闘して西田さんは訳詩を手がけ、大中原さんのメロディーが付いて楽曲「犬との誓い」は完成する。取材の当日、西田さんは大中原さんの楽譜を大切に抱いて見えた。商業ベースではない、どうしても伝えなければという愛情のこもった曲は、こうした個人の情熱から誕生するものなのかもしれない。

「人も動物もその絆が薄れ、どこか心の通い難い世の中になった。でも歌には理屈も垣根もないでしょ。真っすぐ人の心に投げられる。私はその力を信じています」

歌って本気を出したいなと思う。

田中美絵=文 南條良明=写真